表4　地区別標本数と回収数（率）

| 地　区 | 標本数 | 回答数（率） |
|---|---|---|
| 北海道 | 227 | 173（76.2） |
| 東　北 | 389 | 291（74.8） |
| 関　東 | 1597 | 1051（65.8） |
| 北　陸 | 221 | 176（79.6） |
| 東　山 | 205 | 162（79.0） |
| 東　海 | 494 | 365（73.9） |
| 近　畿 | 816 | 564（69.1） |
| 中　国 | 307 | 239（77.9） |
| 四　国 | 167 | 128（76.6） |
| 北九州 | 339 | 250（73.7） |
| 南九州 | 238 | 176（73.9） |
| 計 | 5,000 | 3,575（71.5） |

## C．研究結果

### 1．回収結果（表2～表6）

回答数（率）は3,575（71.5%）であり、調査不能ケースの内訳は表2、表3の通りである。地区別標本数と回答数（率）は表4の通りである。今回の回答数は、この種の調査としてはまずまず良好と考えられる。

対象の性・年齢・学歴は表5に示した。

対象の職業・身分は表6に示した。

### 2．調査結果（表7～表135）

調査結果は男女別に表7～表135に示した。また、調査結果の中で重要と思われる項目については図1～図32、表136～140に示した。

## D．考察

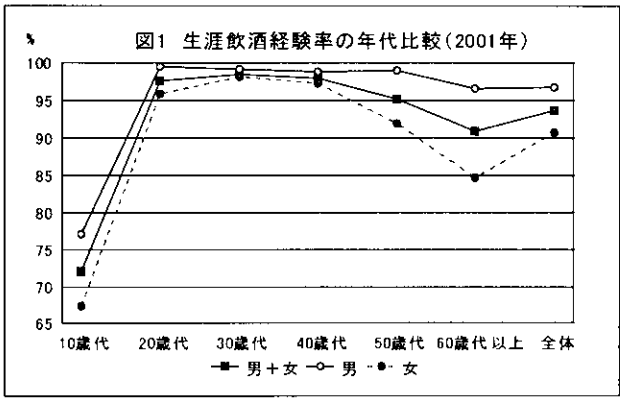
### 1．飲酒習慣について

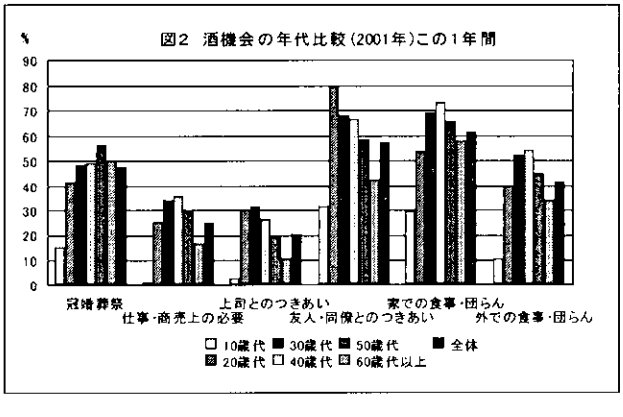
飲酒生涯経験率（これまでに1回でも飲酒したことのある者の割合）は、男性で96.8%、女性で90.8%、全体で93.7%であった（表7）。図1に飲酒経験率の年代別比較を示したが、10歳代を除けば、男性では年代に関わらず95%を越えており、女性でも50歳代までは90%を越えていた。このことは、わが国では、ほとんどの者に飲酒の生涯経験があり、「飲んだことがあるか、ないか」を基準に飲酒関連問題を論じてもさほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的因子を絡めて論じる必要があることを示唆している10)13)16)。

これまでに飲酒したことのある機会（表8）では、男性では「友人・同僚と」（78.6%）、「家の食事・団らん」（74.6%）、「冠婚葬祭」（73.1%）が多く、女性では「冠婚葬祭」（71.1%）、「友人・同僚と」（70.1%）、「家の食事・団らん」（68.3%）が多かった。

初飲年齢（初めて飲酒した年齢）は表9の通りである。男性では「18～19歳」で始めた者が最も多く、女性では「20歳以降」に始めた者が最も多かった。

飲酒経験者が「それなりに飲酒するようになった時期」は表10の通りである。男女共に「20歳以降」の者が最も多く、次いで「18～19歳」が多かった。ただし、「それなりに飲酒」という聞き方は、わかりやすいようで不明確であり、人によっては「それなりに飲酒」するまでには至らなかった者も少なくなく、そのような者たちにとって、この設問には妥当な選択肢がなく、回答者に混乱を生じさせた。そこで、今回の集計では、そのような者たちの回答を探し出し、「無回答」として



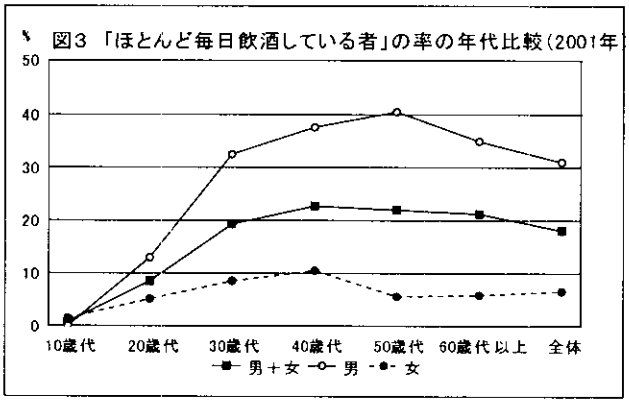



集計した。この設問をどう改良するかは今後の課題の一つである。

飲酒1年経験率（この1年間で飲酒経験のある者の割合）は、男性で89.6%、女性で82.5%であった（表11）。

過去1年間で飲酒した機会（表12）は、男性では「家の食事・団らん」(74.7%)、「友人・同僚と」(74.0%)、「冠婚葬祭」(60.3%) が多く、女性では「家の食事・団らん」(67.7%)、「友人・同僚と」(59.8%)、「冠婚葬祭」(50.6%) が多かった。図2は、過去一年間に飲酒した機会の頻度を示しているが、「冠婚葬祭」での飲酒経験は50歳代で最も高く、「仕事・商売上の必要」は30歳代、40歳代、「上司とのつきあい」は20歳代、30歳代、「友人・同僚とのつきあい」は20歳代、「家での食事・団らん」は30歳代、40歳代、「外での食事・団らん」は30歳代、40歳代で最も高く、ライフサイクルの影響を色濃く反映していると考えられた。

過去1年間の飲酒頻度は、男性では「ほとんど毎日」の者が34.4%と最も多く、「週3～6回」の者も含めると、51.2%にのぼった。女性では「1年間に数回」の者が33.4%と最も多かった。



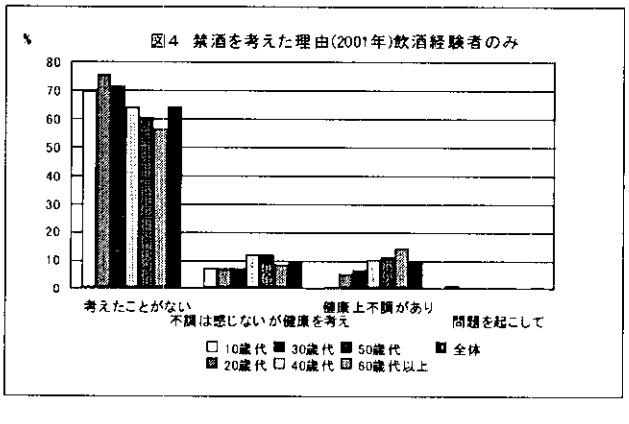




図3は、「この1年間で、ほとんど毎日飲酒している者」の割合を年代比較で示している。男女共に年代が進むにつれて増加し、男性では50歳代、女性では40歳代でピークを迎え（それぞれ40.3%、10.6%）、その後、低下することが示されている。

生涯飲酒経験者での禁酒に対する考え・実態は表14に示した。禁酒中の者も含めて禁酒を考えたことのある者は、男性で29.2%（480人）、女性で12.5%（212人）であった。

禁酒を考えた理由としては、男性では「健康上の不調を感じたから」の者が50.2%と最も多く、女性では「健康上の不調は感じないが可能性が心配になったから」が45.3%と最も多かった。図4は、理由の年代別比較である。40歳代、50歳代で健康上の心配が増え、実際の不調も40歳代から増加することがわかる。

## 2．喫煙習慣について

これまでに1回でも喫煙したことのある者の割合（喫煙生涯経験率）を表16に示した。男性で86.5%、女性で45.1%、全体では64.8%であった。図5は喫煙生涯経験率を年代別に示している。男性では19歳代を除けば、世代に関わらず90%と高率であるが、女性では40歳代以降の世代と50歳代以上の世代とで違いがある可能性が示唆された。

喫煙生涯経験者について、初めて喫煙した時の年齢を表17に示した。男女ともに「18-19歳」で始めた者が最も多かった。

また、喫煙生涯経験者について、「それなりに喫煙するようになった時期」を表18に示した。ここでも「それなりに」という設問の曖昧さは飲酒の場合と同じであるが、飲酒の場合ほどは混乱が見られなかった。喫煙の場合、吸うと言うことは「それなりに吸う」レベルに発展しやすいことを示唆している可能性がある。

喫煙1年経験率（この1年間で1回でも喫煙したことのある者の割合）を表19に示した。男性で54.7%、女性で19.1%、全体で36.0%であった。図6は喫煙1年経験率を年代別に示したものである。男女ともに20歳代で最も高く、以後、年代とともに低下していた。

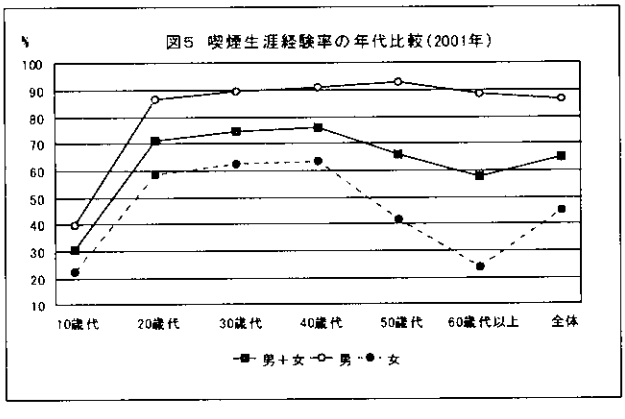
喫煙1年経験者に関して、過去1年間の喫煙頻度を表20に示した。「ほとんど毎日」の者が男性では87.3%、女性で76.5%、全体で84.4%であり、飲

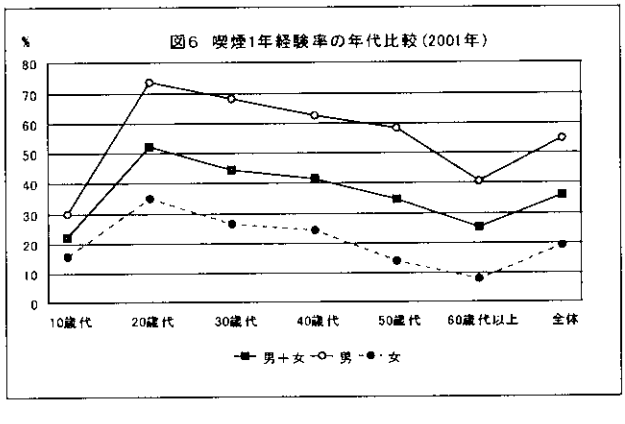
酒に比べて高率であった。

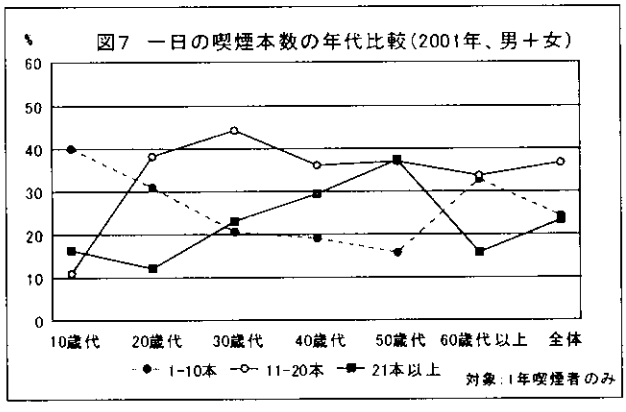
図7～図9は喫煙1年経験者の中での「ほとんど毎日」喫煙する者の本数からみた割合を示している。男女ともに20歳代から50歳代まで、一日21本以上喫煙する者の割合が年代とともに増加していた（図8、図9）。

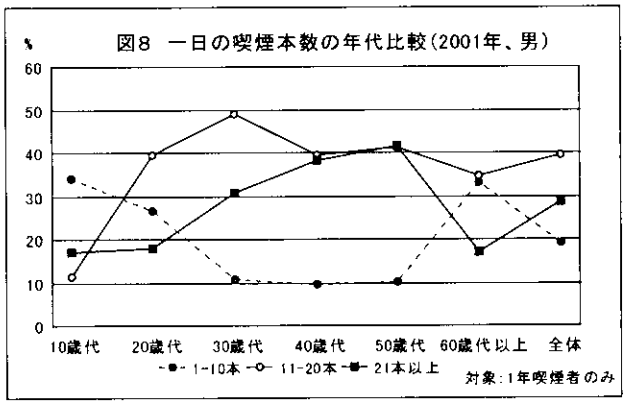
喫煙生涯経験者に関して、禁煙を考えたことの有無と禁煙状況とを表21に示した。また、図10は、喫煙生涯経験者に関して、禁煙を考えたことのある者の割合を年代別に示した者である。男性では40歳代から急に割合が増加していたが、女性では20歳代のみが特異的に高かった。20歳代の女性では妊娠問題が絡んでいると推定できる。

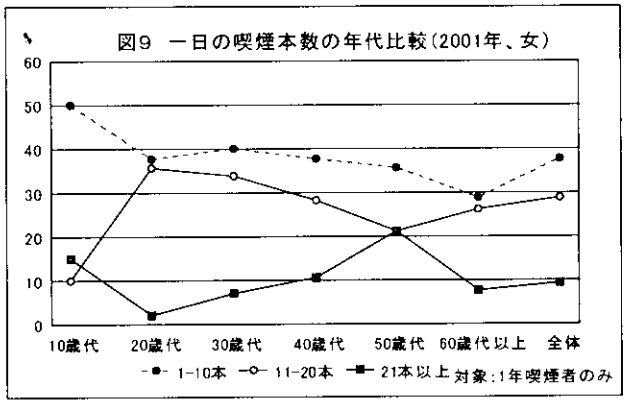
喫煙生涯経験者で、禁煙を考えたことがあるか、あるいは禁煙したことがある者に関して、その禁煙理由を表22に示した。男女ともに、「健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから」を選んだ者が最も多く、次に「健康上の不調を感じたから」「他者への影響」を選んだ者が多かった。

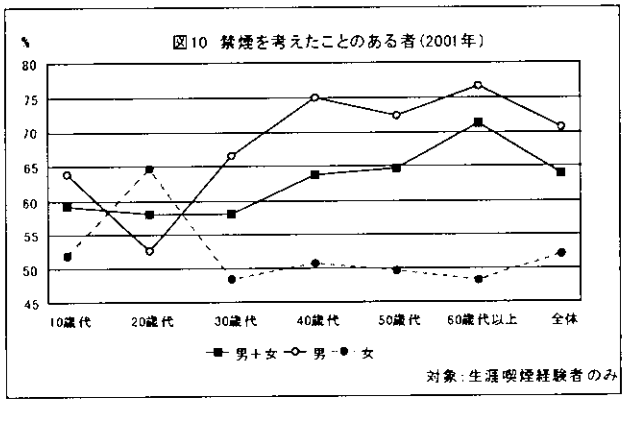


## 3．常備薬・医薬品について

### 1．常備薬について

家庭の常備薬の常備状況については表23に示した。常備薬としては、①風邪薬（69.1%）、②胃腸薬（64.0%）、③目薬（59.6%）、④湿布薬（50.5%）、⑤鎮痛薬（37.9%）、⑥ビタミン剤（33.7%）の順に頻度が高く、その割合、順序は1999年調査15）の結果と同じであった（ただし、「目薬」は今年度から追加した）。

また、過去1年間で1回でも使用したことのある医薬品としては、（無回答者を含めて）①風邪薬（66.6%）、②目薬（50.8%）、③鎮痛薬（48.5%）、④胃腸薬（46.2%）、⑤湿布薬（37.8%）の順で頻度が高かった（表24）。

### 2．鎮痛薬使用について

鎮痛薬をこの1年間に1回でも使用したことのある者の割合は男性で40.9%、女性で55.5%、全体で48.5%であったが（表24）、この鎮痛薬1年使用経験率は、1999年調査15）では男性で35.4%、女性で52.4%、全体で44.4%であり、1997年調査6）では、それぞれ27.1%,43.5%,35.5%、1995年調査5）では、それぞれ26.8%,42.3%,34.9%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率が高かった。これについては、質問形式が1999年調査及び今回、若干変更されたことによる可能性もあるが、後述する精神安定薬使用状況から考えると、形式変更による変化はさほどないと考えられ、鎮痛薬１年経験率は年ごとに高くなっている可能性がある。しかし、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

鎮痛薬のこの1年間での使用頻度は表25の通りである。使用した者の頻度は、「1年間に数回」使用した者が男性で28.1%、女性で31.5%、全体で29.9%と最も多かった。鎮痛薬の使用には、慢性疼痛に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表25の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では2.3%、女性では1.8%、全体では2.0%であった。この常用的使用者率は1999年調査15）では、男性で1.6%、女性で1.7%、全体では1.6%であり、性別に関わらず今回の方が高かった。

また、鎮痛薬の入手先（表26）としては、全体では①「薬局・薬店」、②「医院・病院」という順であったが、男性では「医院・病院」が最も多く、女性では「薬局・薬店」が最も多いという性差が認められた。この性差は鎮痛薬の使用理由として、女性では「生理痛」による使用の割合が男性より明らかに高いことによるものと推定できる（表27）。

鎮痛薬の使用目的（表27）としては、全体では①「頭痛」、②「歯痛」、③「生理痛」の順であった。ただし、男性では①「頭痛」、②「歯痛」、③「腰痛」の順であり、女性では①「頭痛」、②「生理痛、③「歯痛」の順であった。「遊び・快感目的」での使用者は一人も認められなかった。

鎮痛薬には概して依存惹起作用があるものが多いが、その鎮痛薬の使用についての心情・実情を表28に示した。男女ともに「使う必要がないので、考えたことがない」と答えた者が最も多かったが、それ以外では、男女ともに「必要な時には心配せずに使っている」者が最も多く、次いで「心配もあるがどちらかというと使う」者が多かった（表28）。

### 3．精神安定薬使用について

精神安定薬をこの1年間に1回でも使用したことのある者の割合は、男性で5.9%、女性で8.3%、全体で7.2%であったが（表24）、この精神安定薬1年使用経験率（無回答者を含めて）は、1999年調査15）では男性で5.7%、女性で8.5%、全体で7.2%であり、1995年調査5）では、それぞれ5.2%,6.9%,6.1%、1997年調査6）では、それぞれ4.8%,7.3%,6.4%であり、今回の結果は1999年調査の結果とほとんど同じであった。

精神安定薬のこの1年間での使用頻度は表29の通りである。使用した者の頻度は、「1年間に数回」使用した者と「ほとんど毎日」使用した者との割合が、男性では1.9%と1.9%、女性では3.3%と2.1%、全体では2.6%と2.0%と拮抗していた。

精神安定薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表29の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では2.4%、女性では2.5%、全体では2.4%であった。この常用的使用者率は1999年調査15）では、男性で2.3%、女性で2.8%、全体

では2.6%であり、今回とほとんど同じ結果であった。

また、精神安定薬の入手先（表30）は、「医院・病院」が全体で83.6%、「薬局・薬店」が全体で7.8%であり、1999年の結果はそれぞれ93.8%、6.6%であったことを考えると15)、今回の結果は院外処方の普及が進んできたことを反映している可能性もあるが、口述するように睡眠薬では「薬局・薬店」の割合が2001年では減少しており、結果的に何とも言えない結果であった。

精神安定薬の使用目的（表31）としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多く、次に「不安解消」、「ストレス軽減」が続いた。「遊び・快感目的」で使用した者は認められなかった。

精神安定薬には概して依存惹起作用があるものが多いが、その精神安定薬の使用についての心情・実情を表32に示した。男女ともに「使う必要がないので、考えたことがない」と答えた者が最も多かったが、それ以外では、男女ともに「必要な時には心配せずに使っている」者と「心配もあるがどちらかというと使う」者とが拮抗していた(表32)。

以上より、精神安定薬の使用が社会問題化しているとは推定できない。

### 4．睡眠薬使用について

睡眠薬をこの1年間に1回でも使用したことのある者の割合は、男性で4.8%、女性で6.8%、全体で5.8%であったが（表24)、この精神安定薬1年使用経験率（無回答者を含めて）は、1999年調査15)では男性で4.9%、女性で6.5%、全体で5.8%であり、1997年調査6)では、それぞれ4.2%,5.5%,4.9%、1995年調査5)では、それぞれ4.4%,5.0%,4.7%であった。2001年の結果は1999年の結果とはほとんど同じであった。2001年、1999年の結果と1997年、1995年の結果との違いは、1999年からの尋ね方の違いによる可能性がある。

睡眠薬のこの1年間での使用頻度は表33の通りである。使用した者の頻度は、女性と全体では「1年間に数回」使用した者と「ほとんど毎日」使用した者との割合が、それぞれ3.0%と1.0%、2.5%と1.1%と「1年間に数回」使用した者の方が多かったが、男性では1.8%と1.3%と拮抗していた。男性では1.9%と1.9%、女性では3.3%と2.1%、全体では2.6%と2.0%と拮抗していた。

睡眠薬薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表33の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では0.8%、女性では1.4%、全体では1.7%であった。この常用的使用者率は1999年調査15)では、男性で1.8%、女性で1.2%、全体では1.5%であり、男性で減少した可能性はあるが、全体では今回とほとんど同じ結果であった。

また、精神安定薬の入手先（表34）は、「医院・病院」が全体で92.8%、「薬局・薬店」が全体で2.9%であり、1999年の結果はそれぞれ89.9%、5.3%であったことを考えると、今回の結果は1999年よりも「薬局・薬店」の割合が減少していた。

睡眠薬の使用目的（表35）としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多く、次に「不安解消」、「ストレス軽減」が続いた。「遊び・快感目的」で使用した者は認められなかった。

睡眠薬には多かれ少なかれ依存惹起作用があるが、その睡眠薬の使用についての心情・実情を表36に示した。男女ともに「使う必要がないので、考えたことがない」と答えた者が最も多かったが、それ以外では、男女ともに「必要な時には心配せずに使っている」者と「心配もあるがどちらかというと使う」者とが拮抗していた（表36)。

以上より、睡眠薬の使用が社会問題化しているとは推定できない。

## 4．違法性薬物について

### 1．違法性薬物について

違法性薬物の名前をどの程度聞いたことがあるか（周知度）を、表37に示した。

有機溶剤に関しては、「シンナー」という呼称は年代に関わりなく80%以上の者が周知しているが、「有機溶剤」というと、年代に関係なく約20%前後の者しか周知していなかった（図11)。また、「トルエン」に関しては、20歳代以降の者では約50%前後からそれ以上の者が周知していたにも関わらず、トルエンを主流とする「シンナー遊び」の最頻年代である15～19歳では約30%の者しか周知していなかった。しかし、1999年調査15)では、その数字は17.2%であり、それに比べれば周知率が上がったことになる。しかし、薬物乱用防止教育のなお一層の徹底が望まれる（図11)。

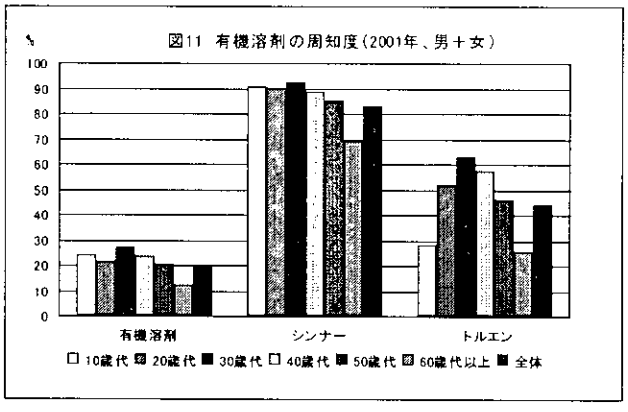
大麻に関しては、「大麻」という用語は男女共に約90%前後の者に知られているが、「マリファナ」は男女共に約75%に減少し、「ハシッシ」（大麻樹脂）に至っては、男性で22.1%、女性で12.5%、全体で17.1%の者しか周知していなかった（表37）。しかし、1999年調査15)では、それぞれ18.7%、9.6%、13.9%であったから、それでも周知度は上昇していることになる。また年代別には（図12）、「ハシッシ」は40歳代をピークにして、その前後での周知度が低かった。

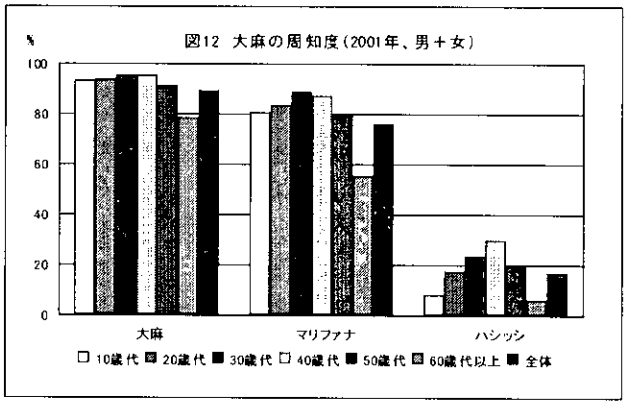
覚せい剤については、「覚せい剤」自体は男女共に86～87%の者が周知していたが、「スピード」となると、全体で35.9%に低下し、「エス」では、さらに12.4%に低下していた（表37）。しかし、年代別に見てみると（図13）、「スピード」「エス」では、10歳代に最も高く周知されており、その割合は年代の増加とともに減少していた。同時に、その逆が「ヒロポン」「シャブ」であり、特に「ヒロポン」で年代差が著明であった（図13）。第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つに、「シャブ」と言われた覚せい剤を「スピード」「エス」と称して、若者がファッショナブル感覚で使用するという面があるが、以上の結果は、その傾向を強く示唆する者と解釈できる。

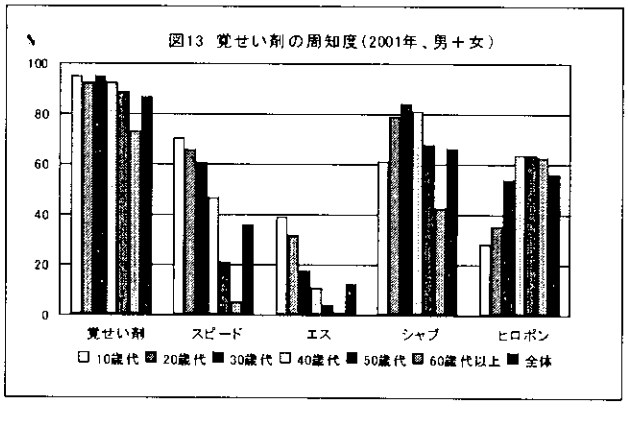
依存性薬物の乱用の繰り返しは、薬物依存を生み出すが、そのことを知っているかどうかについての結果を表38に示した。男女ともに約94%の者が「知っている」と答えた。1999年調査15)では、全体で91.1%であり、上昇傾向が伺われた。

## 2．違法性薬物の乱用拡大傾向について

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ヘロイン、コカイン、LSD乱用者の増減傾向についての印象を調べた（表43、表56、表72、表86、表99、表112）。いずれの薬物においても「わからない」と答えた者が最も多いが、次に「以前より増えている」を選んだ者が多かった。図14は「以前より増えている」を選んだ者の割合を薬物別に示している。「有機溶剤」「覚せい剤」ではさほど変化はないが、「大麻」で著しく増加し、「ヘロイン」「コカイン」「LSD」でも増加していた。実際はどうなのかは誰にも本当のところはわからないのであるが、それを探ろうというのが本調査研究の目的でもある。ただし、この種の印象は、各種マスメディアによる影響も受けやすいのは確かであろう。

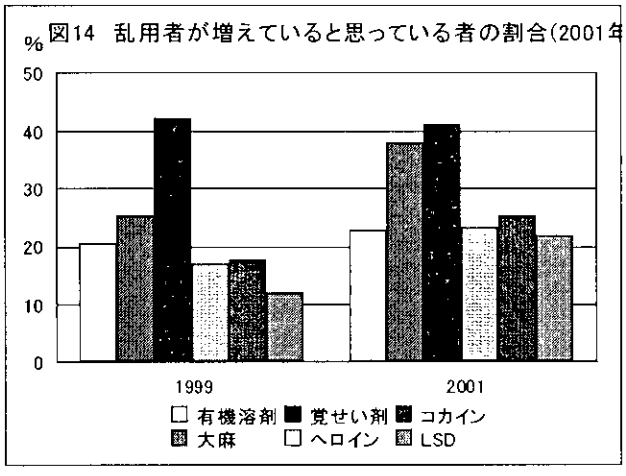


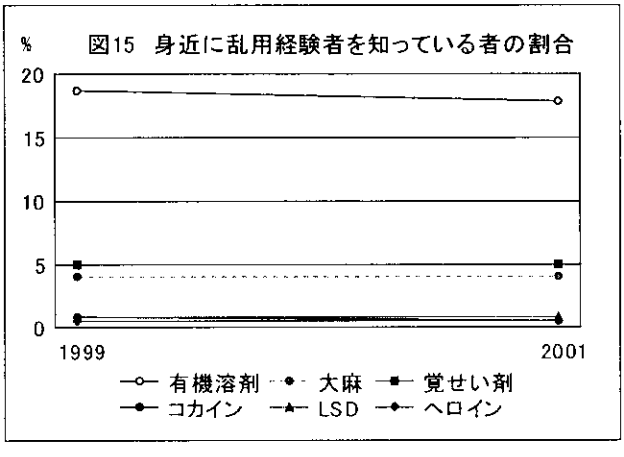



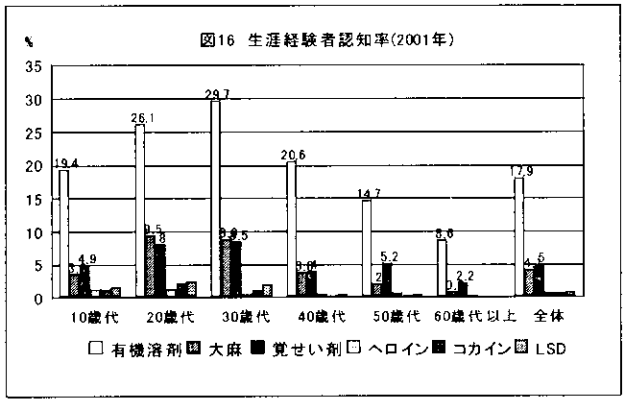




## 3．違法性薬物乱用者の認知率

これまでに違法性薬物を乱用したことがある人を身近に知っているかどうかを表44、表58、表74、表87、表100、表113示した（生涯経験者認知率）。その内、「知っている」と答えた者の割合を図15に示した。1999年調査15)の結果は、1995年調査5)、1997年調査6)の結果と大きく異なっており、その原因として、1999年調査の設問では、「身近な人で」や「あなたの周囲で」という修飾語を付けなかったための可能性があると1999年調査では論じたが、今回、「身近にいた」「身近にいる」という修飾語を付けたにもかかわらず、結果は1999

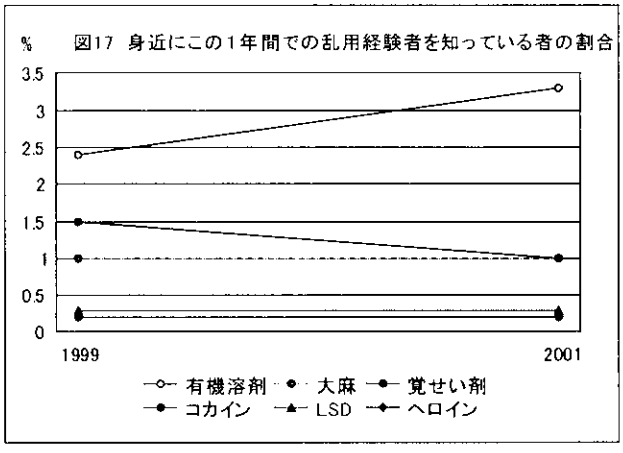


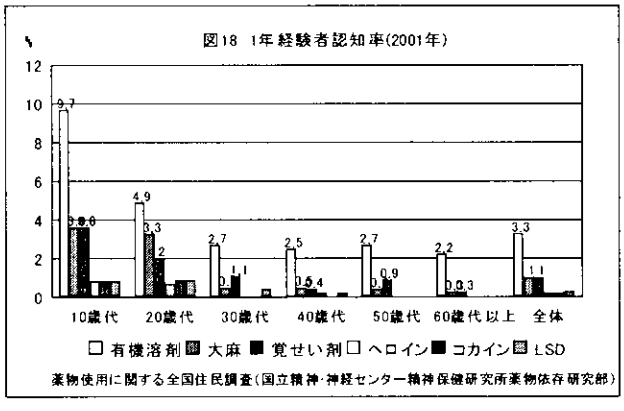




年とほとんど同じであった（図15）。図15のように、有機溶剤乱用者の割合が最も高かったことは、後述するように、わが国の薬物乱用状況を反映している。

生涯経験者認知率を年代別に表45、表59、表75、表88、表101、表114に示した。これらの結果をまとめたものが図16である。生涯経験者認知率はいずれの薬物でも30歳代、20歳代で高いが、コカイン、LSDは率としては低いながらも、20歳代で高



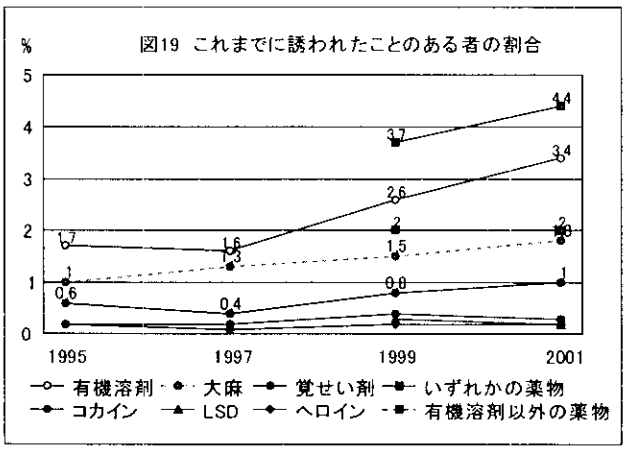

いことが目立った。

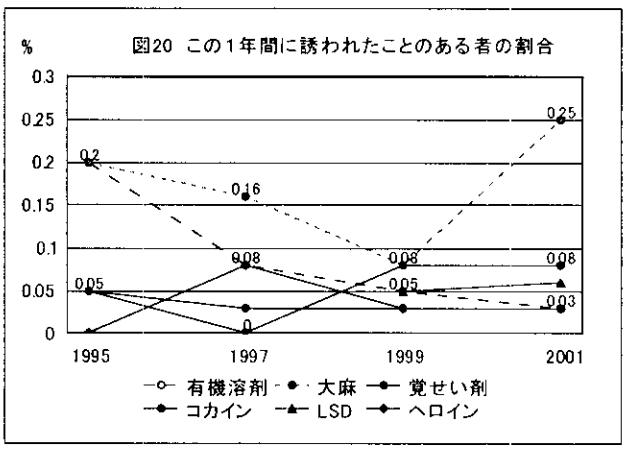
また、生涯経験者を知っている者は何人の生涯経験者を知っているかを尋ねた結果を表46、表61、表76、表89、表102、表115に示した。有機溶剤では平均5.02人、大麻で5.05人、覚せい剤で3.41人、ヘロインで4.12人、コカインで4.10人、LSDで2.89人であった。

この1年間で身近に違法性薬物を乱用したことがある人を知っているかどうかを表47、表62、表77、表90、表103、表116に示した（1年経験者認知率）。その内、「知っている」と答えた者の割合を図17に示した。1999年調査15)の結果と比較して、有機溶剤で増加し、覚せい剤で減少していた。

1年経験者認知率を年代別に表48、表63、表78、表91、表104、表117に示した。これらの結果をまとめたものが図18である。生涯経験者認知率はいずれの薬物でも10歳代、20歳代で高かった。

また、1年経験者を知っている者は何人の1年経験者を知っているかを尋ねた結果を表49、表65、表79、表92、表105、表118に示した。有機溶剤では平均3.77人、大麻で3.53人、覚せい剤で2.70人、ヘロインで3.33人、コカインで2.27人、LSDで3.5




6人であった。

## 4．違法性薬物乱用へ誘われた経験

これまでに違法薬物の乱用に誘われたことがあるかないかの結果を、表50、表66、表80、表93、表106、表119に示した（生涯被誘惑経験率）。表136、表137、図19は、その年次推移を示している。有機溶剤で著しい増加傾向が認められ、大麻、覚せい剤では緩やかな増加傾向が認められた。生涯被誘惑経験率は、薬物乱用の実態を評価する際に、生涯乱用経験率とともに重要なデータである。図19に見る生涯被誘惑経験率は、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高く、この順番は後述するように、生涯乱用経験率と同じである。年代別では、いずれの薬物でも25歳-29歳で最も高く、有機溶剤で10.5%（表52）、大麻で5.4%（表68）、覚せい剤で0.8%（表85）、ヘロインで1.2%（表95）、コカインで1.2%（表108）、LSDで1.6%（表121）であった。

また1年被誘惑経験率（この1年間で乱用に誘われたことのある者の率）は図20に示した。しかし、値自体が小さく、0.15%以下はすべて統計誤差内

表136　これまでに違法性薬物の乱用に誘われたことのある者の割合（生涯被誘惑経験率）

| | 1995年 | 1997年 | 1999年 | 2001年 |
|---|---|---|---|---|
| 「シンナー遊び」 | 1.7 | 1.6 | 2.6 | 3.4 |
| 大麻 | 1.0 | 1.3 | 1.5 | 1.8 |
| 覚せい剤 | 0.6 | 0.4 | 0.8 | 1.0 |
| ヘロイン | 0.2 | 0.1 | 0.2 | 0.2 |
| コカイン | 0.2 | 0.2 | 0.4 | 0.3 |
| LSD | | | 0.3* | 0.2 |
| 上記のいずれか | | | 3.7 | 4.4 |
| 有機溶剤以外のいずれか | | | 2.0 | 2.0 |

表137　これまでに違法性薬物の乱用に誘われたことのある者の人数（生涯被誘惑経験者数）

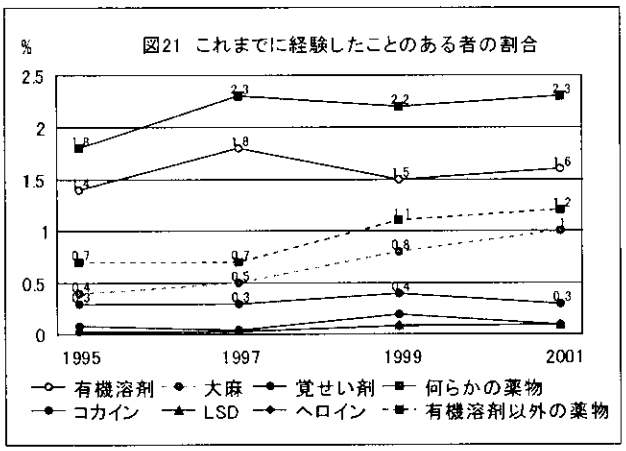
| | 1999年 | 2001年 |
|---|---|---|
| 「シンナー遊び」 | 277万±54万 | 366万±64万 |
| 大麻 | 160±42万 | 194万±47万 |
| 覚せい剤 | 85万±30万 | 108万±35万 |
| ヘロイン | 21万±15万 | 22万±16万 |
| コカイン | 43万±21万 | 32万±19万 |
| LSD | 32万±18万 | 22万±16万 |
| 上記のいずれか | 394万±64万 | 473万±72万 |
| 有機溶剤以外のいずれか | 213万±49万 | 215万±49万 |

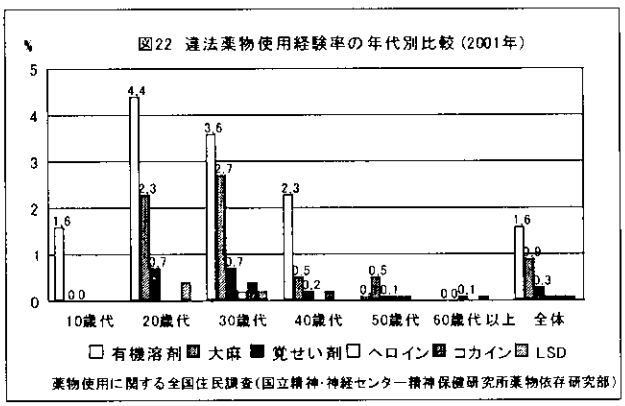
であった。

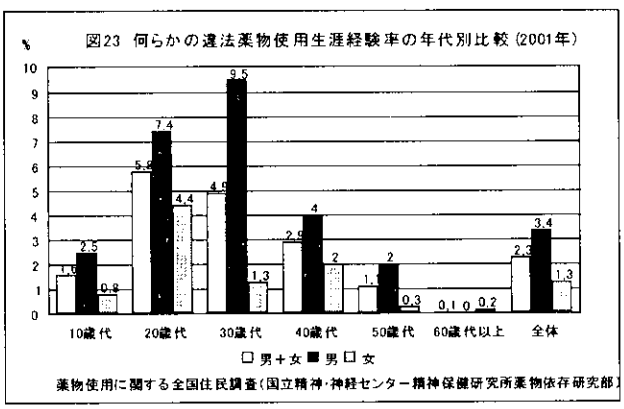
この種の違法薬物に関する調査では、知られたくないという心理が働きがちであり、結果の信憑性が問題になる（後述する乱用の経験では特にそうである）が、重要なのは同じ方法論（＝同じバイアス、と仮定して）による結果の推移である。その意味では、バイアスを考えると、乱用経験率よりは被誘惑率の方が信憑性は高いと考えられる。また、1年間での率よりは、これまでの生涯被誘惑率の方が信憑性は高いと推定できる。

## 5．違法性薬物乱用経験

違法性薬物のこれまでの乱用経験についての結果を、表53、表69、表83、表96、表109、表122に示した（生涯経験率）。図21、表138、表139はその年次推移を示している。大麻での増加が目立ち、有機溶剤も緩やかに増加していたが、覚せい剤では1999年に比べて、減少していた。図21に見る生涯経験率は、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高




く、この順番は前述したように、生涯被誘惑経験率（図19）と同じである。したがって、わが国で乱用されている違法薬物は、この順番に多いことがわかる。年代別では、有機溶剤では25歳-29歳で最も高く（5.4%：表55）、大麻と覚せい剤では25歳-29歳、30歳-34歳、35歳-39歳が拮抗していたが、大麻では30歳-34歳が3.3%（表71）と最も高く、覚せい剤では25歳-29歳が0.8%（表85）と最も高かった。

図22と図23は、薬物の生涯使用経験率を年代別に示したものである。大麻及び覚せい剤の生涯経

**表138　これまでに違法性薬物の乱用を経験したことのある者の割合（生涯経験率）**

| | 1995年 | 1997年 | 1999年 | 2001年 |
|---|---|---|---|---|
| 「シンナー遊び」 | 1.4 | 1.8 | 1.5 | 1.6 |
| 大麻 | 0.4 | 0.5 | 0.8 | 1.0 |
| 覚せい剤 | 0.3 | 0.3 | 0.4 | 0.3 |
| ヘロイン | 0.03* | 0.03* | 0.08* | 0.06* |
| コカイン | 0.08* | 0.05* | 0.2 | 0.1* |
| LSD | | | 0.1* | 0.1* |
| 上記のいずれか | 1.8 | 2.3 | 2.2 | 2.3 |
| 有機溶剤以外のいずれか | 0.7 | 0.7 | 1.1 | 1.2 |

*：統計誤差内

**表139　これまでに違法性薬物の乱用を経験したことのある者の人数（生涯経験者数）**

| | 1999年 | 2001年 |
|---|---|---|
| 「シンナー遊び」 | 160万±42万 | 172万±44万 |
| 大麻 | 85万±30万 | 108万±35万 |
| 覚せい剤 | 43万±21万 | 32万±19万 |
| ヘロイン | 統計誤差内 | 統計誤差内 |
| コカイン | 21万±15万 | 統計誤差内 |
| LSD | 統計誤差内 | 統計誤差内 |
| 上記のいずれか | 234万±50万 | 247万±53万 |
| 有機溶剤以外のいずれか | 117万±35万 | 129万±38万 |

験率は20歳代、30歳代では、それぞれ大麻で2.3%と2.7%、覚せい剤で0.7%と0.7%と高かった。また、いずれかの薬物の生涯経験率と言う見方をすると、20歳代では5.8%、30歳代では4.9%と高く、特に男性に限れば、20歳代で7.4%、30歳代で9.5%にものぼった。このように、生涯経験率は15歳以上の国民全体で見たときには、何らかの薬物の生涯経験率は2.3%に過ぎなかったが、年代別に見るとこれだけ違いが出るのである。

また1年経験率（この1年間で乱用したことがある者の率）は図24、表140に示した。しかし、値自体が小さく、すべて統計誤差内であった。

生涯経験率と1年経験率の信憑性の問題は、前述した誘惑率と同様である。重要なのはトレンドを見ることである。

以上より、覚せい剤の乱用は幸い頭打ち状態のようであるが、大麻の乱用が確実に広がっている可能性が示唆される。ただし、大麻の乱用は、覚

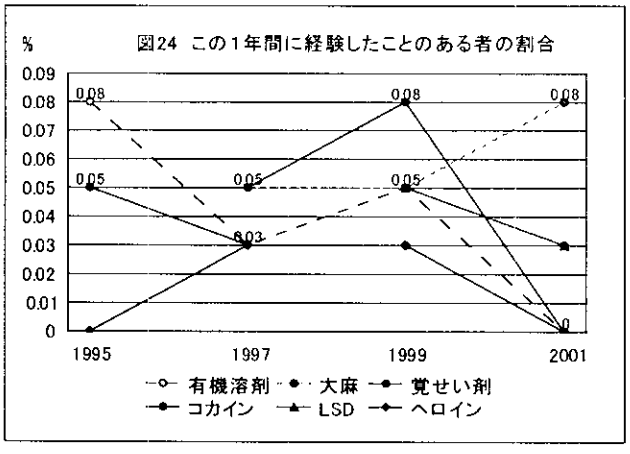



**表140　この1年間で違法性薬物の乱用を経験した率　(1年経験率)**　　*：統計誤差内

| | 1995年 | 1997年 | 1999年 | 2001年 |
|---|---|---|---|---|
| 「ｼﾝﾅｰ遊び」 | 0.08* | 0.03* | 0.05* | 0 |
| 大麻 | 0.05* | 0.05* | 0.05* | 0.08* |
| 覚せい剤 | 0.05* | 0.05* | 0.08* | 0 |
| ヘロイン | －* | 0.03* | 0.03* | 0 |
| コカイン | 0.05* | 0.03* | 0.03* | 0.03* |
| LSD | | | 0.05* | 0.03* |
| いずれか | | 0.05* | 0.2 | 0.1 |

せい剤や麻薬へのゲート・ウェーとなりやすいとされており14)、同時に、大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較的起こしにくく、乱用・依存の広がりの程度を捕捉しにくいという特徴があり1)、今後の動向が危惧される。

## 6．薬物乱用が健康に及ぼす害知識について

有機溶剤乱用が健康に及ぼす害について、知識周知度に関する結果を表39～42に示した。これまで述べてきたように、有機溶剤乱用は、乱用経験者数の上ではわが国最大の問題でありながら、覚せい剤ほどには社会的に関心を集めない感がある。しかし、第2次覚せい剤乱用期の調査によれば、覚せい剤乱用・依存者の少なくとも1/3は、有機溶剤乱用から覚せい剤乱用に進んでおり、有機溶剤乱用の防止が結果的に覚せい剤乱用防止の有力対策になると考えられる。そのため、当研究者らは全国の中学生における薬物乱用状況を把握するための調査9)11)17)で、有機溶剤乱用による健康への害を教える形で調査している。成人を中心とする本調査にも同様の質問を織り込むことによって、社会での有機溶剤乱用への注意を喚起したいと考えている。

有機溶剤の乱用は急性中毒死を招くことがあるが、その周知度は82.7%（1999年調査15)では70.7%。以下かっこ内は1999年調査の結果)）であった（表39)。2000年（1998年）の全国中学生調査17)11)では63.6%（67.6%）であった。

有機溶剤の乱用は幻覚・妄想を主とする精神病を惹起する可能性があるが、その周知度は85.5%（77.1%）であった（表40)。2000年（1998年）の全国中学生調査では74.2%（74.1%）であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しにより、一旦、精神病状態を経験した者には、その後、フラッシュバックが起きる可能性があることの周知度は、63.9%（44.6%）であった（表41)。2000年（1998年）の全国中学生調査では52.5%（46.9%）であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、無動機症候群を惹起する可能性があるが、その周知度は65.8%（62.6%）であった（表42)。2000年（1998年）の全国中学生調査では45.4%（49.0%）であった。

以上のように、中学生での知識の周知度は、どういう訳か減少しているが、成人を中心と今回の調査では周知度は増加していた。

大麻の乱用は精神病状態・フラッシュバック現象・無動機症候群を引き起こすことがあることの周知率は68.9%（69.8%）であった（表57)。

覚せい剤乱用の繰り返しは、精神病を引き起こしやすく、フラッシュバックがあることの周知率は73.3%（67.0%）であった（表73)。

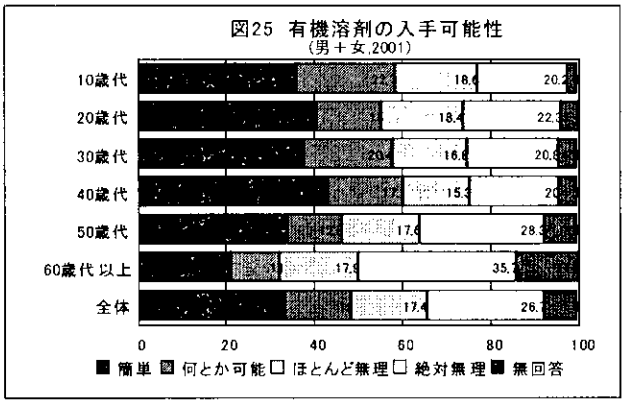
大麻使用による健康への害についての周知度は今後上げていく必要がある。

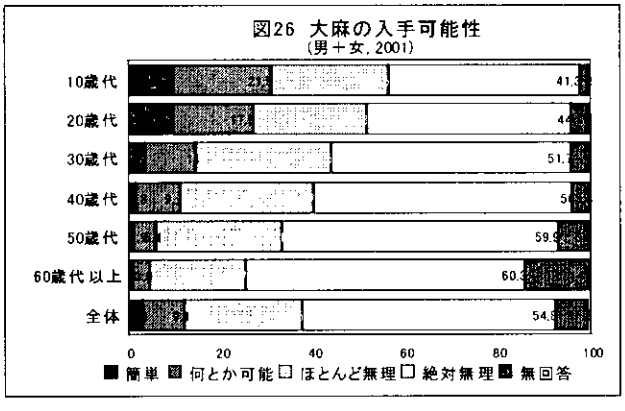
また、マジック・マッシュルームが毒キノコであることを知っていた者の割合は25.3%に過ぎなかった。呼称の重要性を示唆していると考えられた。

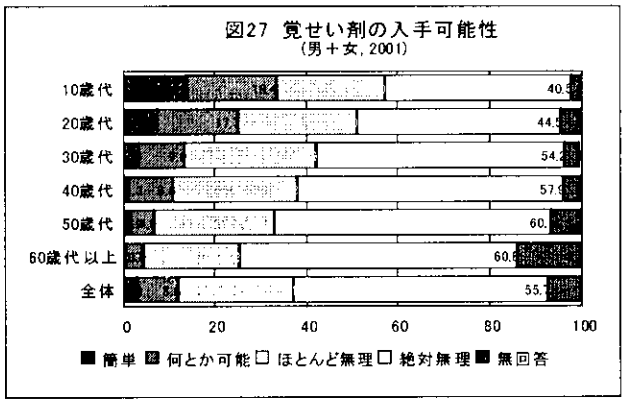
## 7．違法性薬物の入手可能性について

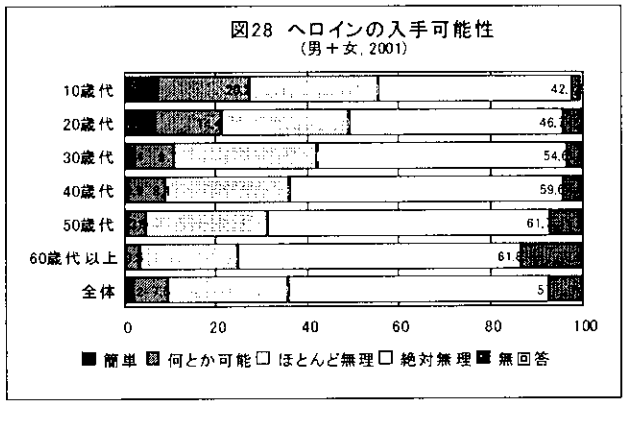
違法性薬物の入手可能性についての結果は表125～表130に示した。その結果を薬物別、年代別に示したものが図25～図30である。

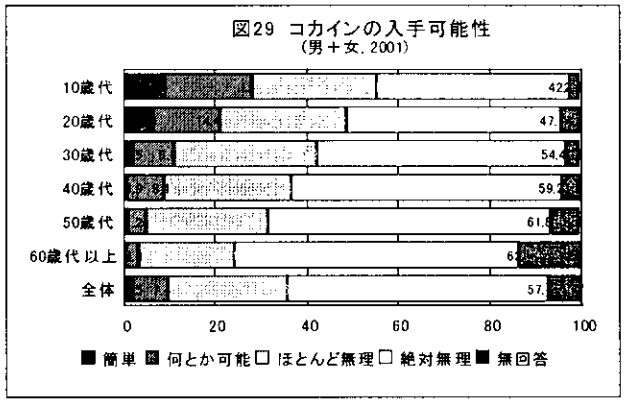
「簡単に手に入る」＋「少々苦労するが、なんとか手に入る」を入手可能群とし、「ほとんど不可能」＋「絶対不可能」を入手不可能群すると、有機溶剤のみが入手可能群（48.3%）が入手不可能群（44.1%）を上回っていた。

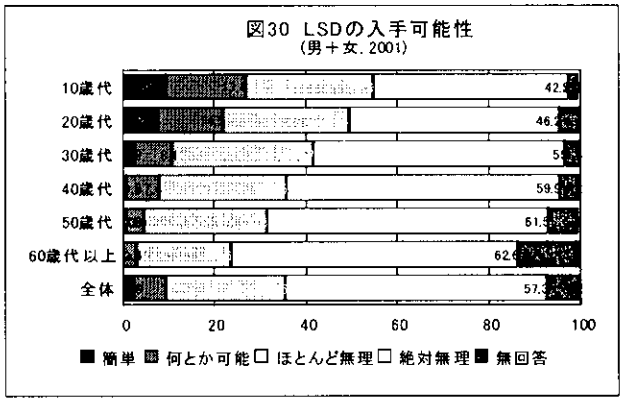


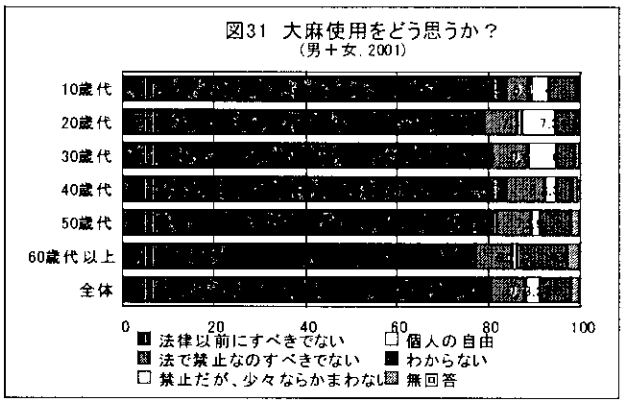



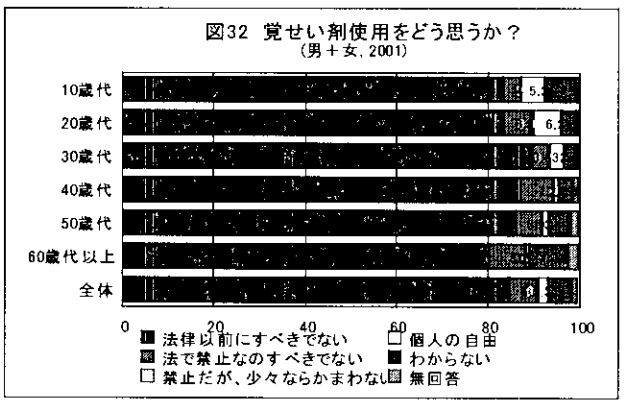

これを薬物別、年代別に見てみると（図25～図30)、有機溶剤では10歳代、20歳代、30歳代、40歳代で入手可能群は50%を越えていた。その他の違法薬物では年代が若いほど入手可能群が多いことが明らかであった。これらのことは、第3次覚せい剤乱用期における多様な乱用薬物の入手可能性の高まりを示唆するものであり、憂慮される結果である。

## 8．法の遵守性について

本研究者らは、わが国の薬物乱用・依存状況が多くの先進諸国に比べて良好な背景には、国民の遵法精神の高さがあると推定している。覚せい剤は使用自体が法により規制されており、その使用について如何なる意識を持っているかを調査した（表131、表132)。「法律で云々言う以前に、そもそも、すべきではないと思う」を選んだ者が、大麻では80.5%、覚せい剤では84.7%もいたことは、上記推論を裏付けている。

しかし、これを年代別に見ると（図31,図32)、「そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う」を選んだ者は、大麻でも覚せい剤でも、20歳代を中心に30歳代ないしは10歳代で多かっ




た。このような認識が増加すれば、わが国の薬物乱用・依存状況は好ましくない方向に進展することは明らかであり、薬物乱用・依存問題は「個人の自由」ではすまない問題であることの認識を徹底する必要がある。

## E. 結論

わが国の飲酒・喫煙・医薬品をも含めた薬物乱用・依存状況を把握するために、全国の15歳以上の住民に対して、戸別訪問留置法による「薬物使用に関する全国住民調査」を実施した。

① 対象は、層化二段無作為抽出法（調査値点数：350）を用い、5,000人を抽出した。調査期間は2001年9月20日～10月5日である。

② 回収数及び有効回答数は、ともに3,575（71.5%）であった。

**【飲酒】**

① 飲酒生涯経験率（これまでに1回でも飲酒したことのある者の率）は、男性で96.8%、女性で90.8%、全体で93.7%であった。

② 飲酒生涯経験者の初飲年齢が20歳前の者が、男性では77.3%、女性では59.4%、全体で68.1%であった。

③ 「ほとんど毎日飲酒している」者の割合は、男性では50歳代、女性では40歳代で最高となり（男性：40.3%、女性：10.6%）、その後、低下していた。

④ その他、飲酒の機会、禁酒経験等、わが国の飲酒はライフ・サイクルと深く結びついており、飲酒問題を論じる際には、飲んだことがあるかないかを基準にしても、さほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的要因を考慮する必要があることが示唆された。

**【喫煙】**

① 喫煙の生涯経験率は、男性で86.5%、女性で45.1%、全体で64.8%であった。1999年調査15)の結果は、1995年5)、1997年6)調査の結果に比べて、男性での喫煙者の減少傾向と女性での横這い傾向を示唆していたが、どういう訳か今回の結果は、男女ともにこれまでになく高い結果となった。

② 初めての喫煙年齢が19歳以前であった者の割合は、男子では75.7%、女子では56.9%であり、全体では69.4%であった。

③ この1年間に喫煙経験のあった者での1日の喫煙本数は、男性では11-20/日の者が39.5%と最も多く、次に1日21本以上の者が28.7%と多かった。女性では、1-10/日の者が37.8%と最も多く、次に11-20/日の者が29.1%と多かった。

④ 年代別では、男性では1日に21本以上吸う者の割合は、年代とともに増加し、50歳代でピークを迎え、その後は低下していた。一方、女性では20歳代で一旦低下するが、その後増加し、同じく50歳代でピークを迎え、以後低下していた。

⑤ また、禁煙を考えたことのある者の割合は、男性では20歳代が最も低く、その後年代とともに増加していたが、女性では20歳代で突出して高く、その前後では大きな変化は認められなかった。

**【医薬品】**

① 家庭の常備薬としては、①風邪薬、②胃腸薬、③目薬、④湿布薬、⑤鎮痛薬、⑥ビタミン剤の順に頻度が高く、1999年調査の結果と基本的に同じであった。

② この1年間に1回でも使用したことのある医薬品としては、①風邪薬、②目薬、③鎮痛薬、④胃腸薬、⑤湿布薬の順で頻度が高かった。

医薬品を常用（週3回以上）している割合は、鎮痛薬で男性2.3%、女性1.7%、全体で1.6%であり、精神安定薬では男性2.4%、女性2.5%、全体で2.4%、

睡眠薬では男性0.8%、女性1.4%、全体で1.7%であった。

③　鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬に関し、「遊び・快感目的」で使用している者は認められなかった。

④　以上より、医薬品の使用に関しては、それなりに適切に使用されていることが示唆された。

**【違法薬物】**

①　違法薬物の呼称の周知度は、同じ薬物でも呼称により周知度が異なることが明らかになった。「覚せい剤」の周知度は全体で86.9%と高いが、「スピード」では35.9%であり、「エス」では12.4%に低下していた。しかし、10歳代では「スピード」の周知率は70.4%、「エス」では39.3%と各年代の中では最も高く、年代により呼称の周知度も変化することが明らかになった。特に、この覚せい剤の呼称は、第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つである、若者によるファッション感覚での使用を反映していると推定された。

②　違法性薬物乱用の生涯被誘惑率（これまでに1回でも誘われたことのある率）は、有機溶剤（3.4%）、大麻（1.8%）、覚せい剤（1.0%）、コカイン（0.3%）、LSD（0.2%）ヘロイン（0.2%）の順で高かった。

この生涯被誘惑率を年代別に見ると、いずれの薬物でも25-29歳で最も高く、有機溶剤で10.5%、大麻で5.4%、覚せい剤で0.8%、ヘロインで1.2%、コカインで1.2%、LSDで1.6%であった。

③　違法薬物の生涯経験率（これまでに1回でも乱用したことのある者の率）は、有機溶剤（1.6%）、大麻（1.0%）、覚せい剤（0.3%）、コカイン（0.1%）、LSD（0.1%）、ヘロイン（0.06%）であった。また、これらのうちのいずれかの薬物の生涯経験率は2.3%（1999年：2.2%）で、有機溶剤を除いたいずれかの薬物の生涯経験率は1.2%（1999年：1.1%）と、いずれも過去最高であった。また、年代別では、いずれかの薬物の生涯経験率は、20歳代では5.8%、30歳代では4.9%と高く、特に男性に限れば、20歳代で7.4%、30歳代で9.5%にものぼった。

大麻の生涯経験率は1995年に本調査が始まって以来着実に増加している。この大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較上起こしにくく、乱用・依存の広がりの程度を捕捉しにくいという特徴があり1)、現実の大麻乱用の広がりは予想以上の可能性がある。また、大麻はゲイト・ウェイ・ドラッグとなりやすい性質があり14)、今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。覚せい剤のみに目を奪われることなく、今後、この大麻乱用の広がりを監視していく必要がある。

生涯経験率を年代で見ると、有機溶剤は25-29歳で5.4%と最も高く、大麻と覚せい剤は25-29歳、30-34歳、35-39歳で拮抗していたが、覚せい剤は25-29歳で0.8%と最も高く、大麻は30-34歳で3.3%と最も高かった。

④　違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤のみが入手可能群（「簡単に手に入る」＋「少々苦労するが、なんとか手に入る」）（48.3%）が入手不可能群（「ほとんど不可能」＋「絶対不可能」）（44.1%）を上回っていた。

ただし、年代別に見ると、有機溶剤に関しては10歳代～40歳代のいずれの年代においても入手可能群が50%を越えていたが、その他の違法薬物では、若い年代ほど入手可能群の割合が多いことが明らかであった。これは第3次覚せい剤乱用期における多様な乱用薬物の入手可能性の増加を示唆するものであり、注意が必要である。

⑤　遵法精神では、その使用について、「法律で云々言う以前に、そもそも、すべきではない」と答えた者が大麻では80.5%、覚せい剤では84.7%いたことは、薬物乱用に関する国民の順法精神の高さを反映するものであった。

しかし、「そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う」を選択した者は、20歳代を中心に、30歳代ないしは10歳代で多かった。このような認識が増加すれば、わが国の薬物乱用・依存状況は好ましくない方向に進展することは明らかであり、薬物乱用・依存問題は「個人の自由」ではすまない問題であることの認識を徹底する必要がある。

⑥　以上のように、2001年のわが国での違法薬物乱用状況は、多くの先進諸国に比べれば極めて良好ということになる。しかし、大麻の生涯経験率が着実に増加しており、また、青年層での各種薬物の入手可能性は高まっており、決して楽観できる状況とは言えない。薬物乱用状況の現状を維持し、できれば廃絶を目指すためにも、気の抜けない状況にあると推定できる。

## F. 研究発表

### 1．論文発表：

(1) 和田　清：薬物乱用・依存の疫学．保健の科学 43:107-112, 2001.

(2) 和田　清：薬物使用の実態－欧米との差異－．Infection Control 10: 794-795, 2001.

(3) 和田　清：わが国における薬物乱用の実態調査．精神医学 43: 503-505, 2001.

### 2．学会発表

(1) Wada, K.: A Brief History and the Current Situation of Methamphetamine Abuse in Japan. XII World Congress of Psychiatry, Yokohama, August 24-29, 2002.（予定）

**謝辞**

本調査研究にご回答をいただいた、多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

### 引用文献

1)尾崎　茂、和田　清、福井　進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査．平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田清）研究報告書．pp.85-116,1999.

2)福井　進、和田　清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査．平成4年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井　進)」平成4年度研究報告書、pp.9-23, 1993.

3)福井　進、和田　清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査．平成5年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井　進)」平成5年度研究報告書、pp.5-26, 1994.

4)福井　進、和田　清、伊豫雅臣：薬物依存の世帯調査．平成6年度厚生科学研究費補助金（麻薬等総合対策研究事業）「薬物依存の社会学的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井　進)」平成6年度研究報告書、pp.5-34, 1995.

5)福井　進、和田　清、伊豫雅臣、浦田重治郎、尾崎　茂：薬物乱用・依存の世帯調査．平成7年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究（主任研究者：寺元　弘)」平成7年度研究報告書第1分冊、pp.5-35, 1996.

6)福井　進、和田　清、菊池周一、尾崎　茂、浦田重治郎：薬物乱用・依存の世帯調査．平成9年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究（主任研究者：寺元　弘)」平成9年度研究報告書第1分冊、pp.7-48, 1998.

7)和田　清,福井　進:覚せい剤精神病の臨床症状---覚せい剤使用年数との関係---.アルコール研究と薬物依存 25:143-158,1990.

8)Wada, K.; Cocaine Abuse in Japan. Lpn. J. Alcohol & Drug Dependence 29: 83-91, 1994.

9)和田　清、勝野眞吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究．平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元弘）第１分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（２）．pp.21-60. 1996.

10)Wada, K., Price, R.K., Fukui, S.: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.

11)和田　清、中野良吾、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成10年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田　清）研究報告書．pp.19-83,1999.

12)和田　清：薬物依存の最近の傾向と対策．日本医事新報 第3920号: 25-32, 1999.

13)和田　清：中学生における飲酒－飲酒文化の反映－．日本アルコール・薬物医学会雑誌 34

:36-48, 1999.
14)和田　清："Gateway Drug"概念について．日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 95-106, 1999.
15)和田　清、菊池安希子、尾崎　茂、菊池周一：薬物使用に関する全国住民調査．平成11年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田　清）研究報告書．pp.17-70, 2000.3.
16) Wada K.: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inhalation among Junior High School Studentsin Japan: Tradition and Urbanization. Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence 36 (2): 124-141, 2001.
17)和田　清、菊池安希子、尾崎米厚、勝野眞吾：薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査．平成12年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究（主任研究者：和田　清）研究報告書．pp.15-76, 2001.

**表5　対象の性・年齢・学歴（%）**

| | | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年齢 | 15-19歳 | 118 | (6.9) | 129 | (6.9) | 247 | (6.9) |
| | 20-24歳 | 82 | (4.8) | 112 | (6.0) | 194 | (5.4) |
| | 25-29歳 | 120 | (7.1) | 138 | (7.4) | 258 | (7.2) |
| | 30-34歳 | 124 | (7.3) | 150 | (8.0) | 274 | (7.7) |
| | 35-39歳 | 119 | (7.0) | 160 | (8.5) | 279 | (7.8) |
| | 40-44歳 | 119 | (7.0) | 145 | (7.7) | 265 | (7.4) |
| | 45-49歳 | 131 | (7.7) | 158 | (8.4) | 289 | (8.1) |
| | 50-59歳 | 350 | (20.6) | 399 | (21.3) | 749 | (21.0) |
| | 60歳以上 | 534 | (31.4) | 481 | (25.7) | 1016 | (28.4) |
| | 無回答 | 2 | (.1) | 2 | (.1) | 4 | (.1) |
| 学歴 | 小学校（尋常小学校も含む） | 36 | (2.1) | 37 | (2.0) | 73 | (2.0) |
| | 中学校（尋常高等小学校も含む） | 312 | (18.4) | 281 | (15.0) | 593 | (16.6) |
| | 専門学校（中卒後） | 47 | (2.8) | 68 | (3.6) | 115 | (3.2) |
| | 専門学校（高校中退後,ないし高卒後） | 110 | (6.5) | 123 | (6.6) | 233 | (6.5) |
| | 高等学校（旧制中学校･高女も含む） | 740 | (43.6) | 894 | (47.7) | 1635 | (45.7) |
| | 短大･大学以上（旧制高等学校も含む） | 426 | (25.1) | 435 | (23.2) | 862 | (24.1) |
| | その他 | 5 | (.3) | 6 | (.3) | 11 | (.3) |
| | 無回答 | 23 | (1.4) | 30 | (1.6) | 53 | (1.5) |
| 合計 | | 1699 | (100.0) | 1874 | (100.0) | 3575 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表6　対象の職業・身分**

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学生 | 10 | (.6) | 9 | (.5) | 19 | (.5) |
| 高校生 | 81 | (4.8) | 90 | (4.8) | 171 | (4.8) |
| 予備校生 | 3 | (.2) | 2 | (.1) | 5 | (.1) |
| 専門学校、各種学校生徒 | 10 | (.6) | 12 | (.6) | 22 | (.6) |
| 短大生、大学生、大学院生 | 39 | (2.3) | 34 | (1.8) | 73 | (2.0) |
| 農林漁業自営者 | 89 | (5.2) | 45 | (2.4) | 135 | (3.8) |
| 商店主 | 57 | (3.4) | 43 | (2.3) | 100 | (2.8) |
| 工場主 | 34 | (2.0) | 15 | (.8) | 49 | (1.4) |
| 土木建築業種 | 61 | (3.6) | 10 | (.5) | 71 | (2.0) |
| 医療関係業種 | 5 | (.3) | 10 | (.5) | 15 | (.4) |
| サービス業事業主 | 45 | (2.6) | 43 | (2.3) | 88 | (2.5) |
| その他の事業主 | 30 | (1.8) | 13 | (.7) | 43 | (1.2) |
| 販売従業者 | 118 | (6.9) | 133 | (7.1) | 251 | (7.0) |
| 保安従業者 | 37 | (2.2) | 4 | (.2) | 41 | (1.1) |
| 運輸従業者 | 75 | (4.4) | 4 | (.2) | 79 | (2.2) |
| 通信従事者 | 5 | (.3) | 3 | (.2) | 8 | (.2) |
| サービス業従事者 | 23 | (1.4) | 84 | (4.5) | 107 | (3.0) |
| 技能職従事者 | 15 | (.9) | 33 | (1.8) | 48 | (1.3) |
| 土木建築業従事者 | 105 | (6.2) | 2 | (.1) | 107 | (3.0) |
| 工場労働者、工業作業者 | 155 | (9.1) | 79 | (4.2) | 234 | (6.5) |
| その他の労務従事者 | 26 | (1.5) | 27 | (1.4) | 53 | (1.5) |
| 専務従事者 | 126 | (7.4) | 190 | (10.1) | 316 | (8.8) |
| 管理的職業 | 76 | (4.5) | 7 | (.4) | 83 | (2.3) |
| 医療職従事者 | 13 | (.8) | 56 | (3.0) | 69 | (1.9) |
| その他の専門、技術職従事者 | 113 | (6.7) | 66 | (3.5) | 179 | (5.0) |
| 専業主婦 | | | 662 | (35.3) | 662 | (18.5) |
| 無職 | 330 | (19.4) | 181 | (9.7) | 511 | (14.3) |
| その他 | 4 | (.2) | 9 | (.5) | 13 | (.4) |
| 無回答 | 14 | (.8) | 8 | (.4) | 23 | (.6) |
| 合計 | 1699 | (100.0) | 1874 | (100.0) | 3575 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表７　これまでの飲酒経験の有無**（生涯飲酒経験率）（％）

| | | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 飲酒経験 | なし | 49 | (2.9) | 166 | (8.9) | 215 | (6.0) |
| | あり | 1645 | (96.8) | 1702 | (90.8) | 3349 | (93.7) |
| | 無回答 | 5 | (.3) | 6 | (.3) | 11 | (.3) |
| 合計 | | 1699 | (100.0) | 1874 | (100.0) | 3575 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表８　これまでに飲酒した機会**（生涯飲酒経験者のみ）（％）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 冠婚葬祭 | 1203 | (73.1) | 1210 | (71.1) | 2414 | (72.1) |
| 仕事･商売上の必要 | 860 | (52.3) | 443 | (26.0) | 1303 | (38.9) |
| 上司とつきあい | 747 | (45.4) | 390 | (22.9) | 1137 | (34.0) |
| 友人･同僚と | 1293 | (78.6) | 1193 | (70.1) | 2487 | (74.3) |
| その他つきあい | 652 | (39.6) | 340 | (20.0) | 993 | (29.7) |
| 家の食事･団らん | 1227 | (74.6) | 1163 | (68.3) | 2392 | (71.4) |
| 外の食事･団らん | 911 | (55.4) | 833 | (48.9) | 1744 | (52.1) |
| 仕事で嫌なこと | 327 | (19.9) | 151 | (8.9) | 478 | (14.3) |
| 家で面白くない事 | 226 | (13.7) | 131 | (7.7) | 357 | (10.7) |
| 寝る前 | 506 | (30.8) | 385 | (22.6) | 892 | (26.6) |
| その他 | 52 | (3.2) | 35 | (2.1) | 87 | (2.6) |
| 飲酒機会ありだが機会不明 | 18 | (1.1) | 18 | (1.1) | 36 | (1.1) |
| 合計 | 1645 | (100.0) | 1702 | (100.0) | 3349 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表９　初めての飲酒経験年齢**（初飲年齢）（飲酒経験者のみ）、（％），[累積%]

| | 男 | | | 女 | | | 全体 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校以前 | 85 | ( 5.2) | [ 5.2] | 77 | ( 4.5) | [ 4.5] | 162 | ( 4.8) | [ 4.8] |
| 小学校時代 | 237 | (14.4) | [19.6] | 216 | (12.7) | [17.2] | 453 | (13.5) | [18.3] |
| 中学校時代 | 255 | (15.5) | [35.1] | 146 | ( 8.6) | [25.8] | 401 | (12.0) | [30.3] |
| 中卒後～17歳 | 236 | (14.3) | [49.4] | 167 | ( 9.8) | [35.6] | 403 | (12.0) | [42.3] |
| 18-19歳 | 459 | (27.9) | [77.3] | 405 | (23.8) | [59.4] | 864 | (25.8) | [68.1] |
| 20歳以降 | 346 | (21.0) | [98.4] | 648 | (38.1) | [97.5] | 996 | (29.7) | [97.9] |
| 無回答 | 27 | ( 1.6) | [ 100] | 43 | ( 2.5) | [ 100] | 70 | ( 2.1) | [ 100] |
| 合計 | 1645 | | (100.0) | 1702 | | (100.0) | 3349 | | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表10　それなりに飲酒するようになった時期**（飲酒経験者のみ）、（％），[累積%]

| | 男 | | | 女 | | | 全体 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校以前 | 1 | ( .1) | [ .1] | 3 | ( .2) | [ .2] | 4 | ( .1) | [ .1] |
| 小学校時代 | 6 | ( .4) | [ .5] | 5 | ( .3) | [ .5] | 11 | ( .3) | [ .4] |
| 中学校時代 | 42 | ( 2.6) | [ 3.1] | 25 | ( 1.5) | [ 2.0] | 67 | ( 2.0) | [ 2.4] |
| 中卒後～17才 | 124 | ( 7.5) | [10.6] | 76 | ( 4.5) | [ 6.5] | 200 | ( 6.0) | [ 8.4] |
| 18-19才 | 510 | (31.0) | [41.6] | 349 | (20.5) | [27.0] | 859 | (25.6) | [34.0] |
| 20才以降 | 908 | (55.2) | [96.7] | 1150 | (67.6) | [94.5] | 2059 | (61.5) | [95.6] |
| 無回答 | 54 | ( 3.3) | [ 100] | 94 | ( 5.5) | [ 100] | 149 | ( 4.4) | [ 100] |
| 合計 | 1645 | | (100.0) | 1702 | | (100.0) | 3349 | | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表11　過去1年での飲酒経験**（飲酒1年経験率）（%）

| | | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 過去1年飲酒経験 | なし | 164 | (9.7) | 308 | (16.4) | 472 | (13.2) |
| | あり | 1523 | (89.6) | 1546 | (82.5) | 3071 | (85.9) |
| | 無回答 | 12 | (.7) | 20 | (1.1) | 32 | (.9) |
| 合計 | | 1699 | (100.0) | 1874 | (100.0) | 3575 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表12　過去1年に飲酒した機会**（過去1年飲酒経験者のみ）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (冠婚葬祭) | 918 | (60.3) | 783 | (50.6) | 1702 | (55.4) |
| (仕事･商売上の必要) | 662 | (43.5) | 240 | (15.5) | 902 | (29.4) |
| (上司とつきあい) | 534 | (35.1) | 186 | (12.0) | 720 | (23.4) |
| (友人･同僚と) | 1127 | (74.0) | 925 | (59.8) | 2053 | (66.9) |
| (その他つきあい) | 521 | (34.2) | 232 | (15.0) | 754 | (24.6) |
| (家の食事･団らん) | 1138 | (74.7) | 1047 | (67.7) | 2187 | (71.2) |
| (外の食事･団らん) | 800 | (52.5) | 683 | (44.2) | 1483 | (48.3) |
| (仕事で嫌なこと) | 225 | (14.8) | 88 | (5.7) | 313 | (10.2) |
| (家で面白くない事) | 163 | (10.7) | 88 | (5.7) | 251 | (8.2) |
| (寝る前) | 437 | (28.7) | 304 | (19.7) | 741 | (24.1) |
| (その他) | 33 | (2.2) | 20 | (1.3) | 53 | (1.7) |
| (飲酒機会ありだが機会不明) | 2 | (.1) | 4 | (.3) | 6 | (.2) |
| 合計 | 1523 | (100.0) | 1546 | (100.0) | 3071 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表13　過去1年での飲酒頻度**（過去1年飲酒経験者のみ）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年間に数回（年5回以内） | 215 | (14.1) | 516 | (33.4) | 732 | (23.8) |
| 2ヶ月に1回（年間約6-11回） | 100 | (6.6) | 195 | (12.6) | 295 | (9.6) |
| 月に1-2回（年間約12-24回） | 132 | (8.7) | 194 | (12.5) | 326 | (10.6) |
| 月に数回（年間約25-51回） | 126 | (8.3) | 163 | (10.5) | 289 | (9.4) |
| 週1-2回程度 | 162 | (10.6) | 188 | (12.2) | 350 | (11.4) |
| 週3-6回程度 | 256 | (16.8) | 140 | (9.1) | 397 | (12.9) |
| ほとんど毎日 | 524 | (34.4) | 126 | (8.2) | 650 | (21.2) |
| 飲んだが頻度不明 | 3 | (.2) | 13 | (.8) | 16 | (.5) |
| 無回答 | 5 | (.3) | 11 | (.7) | 16 | (.5) |
| 合計 | 1523 | (100.0) | 1546 | (100.0) | 3071 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表14　禁酒に対する考え・実態**（生涯飲酒経験者のみ）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 禁酒は考えたことない | 1098 | (66.7) | 1360 | (79.9) | 2458 | (73.4) |
| 禁酒を考えたことはあるが実行したことはない | 261 | (15.9) | 112 | (6.6) | 373 | (11.1) |
| 禁酒を試みたが現在禁酒に至っていない | 124 | (7.5) | 40 | (2.4) | 164 | (4.9) |
| 禁酒中（初めての禁酒。1年未満。） | 23 | (1.4) | 14 | (.8) | 38 | (1.1) |
| 禁酒中（再挑戦の禁酒。1年未満。） | 8 | (.5) | 5 | (.3) | 13 | (.4) |
| 禁酒中（1年以上） | 64 | (3.9) | 41 | (2.4) | 105 | (3.1) |
| 無回答 | 67 | (4.1) | 130 | (7.6) | 198 | (5.9) |
| 合計 | 1645 | (100.0) | 1702 | (100.0) | 3349 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表15　禁酒理由**（生涯飲酒経験あり、かつ、禁酒を考えたことのある人）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康上の不調は感じないが可能性が心配になったから | 182 | (41.7) | 86 | (45.3) | 269 | (42.9) |
| 健康上の不調を感じたから | 219 | (50.2) | 69 | (36.3) | 288 | (45.9) |
| 問題は起こしていないが自分の飲酒にその可能性を感じたから | 22 | (5.0) | 6 | (3.2) | 28 | (4.5) |
| 飲酒で問題を起こしたから | 12 | (2.8) | 5 | (2.6) | 17 | (2.7) |
| その他 | 33 | (7.6) | 37 | (19.5) | 70 | (11.2) |
| 合計 | 436 | (100.0) | 190 | (100.0) | 627 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者1名を含む

**表16　これまでの喫煙経験**（生涯喫煙経験）（%）

| | | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 喫煙経験 | なし | 225 | (13.2) | 1002 | (53.5) | 1227 | (34.3) |
| | あり | 1469 | (86.5) | 845 | (45.1) | 2315 | (64.8) |
| | 無回答 | 5 | (.3) | 27 | (1.4) | 33 | (.9) |
| 合計 | | 1699 | (100.0) | 1874 | (100.0) | 3575 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表17　初めての喫煙時期**（生涯喫煙経験者のみ）、（%）,［累積%］

| | 男 | | | 女 | | | 全体 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校以前 | 15 | ( 1.0) | [ .1] | 8 | ( .9) | [ .9] | 23 | ( 1.0) | [ 1.0] |
| 小学校時代 | 106 | ( 7.2) | [ 7.3] | 41 | ( 4.9) | [ 5.8] | 147 | ( 6.3) | [ 7.3] |
| 中学校時代 | 282 | (19.2) | [26.5] | 89 | (10.5) | [16.3] | 371 | (16.0) | [23.3] |
| 中卒後～17才 | 262 | (17.8) | [44.3] | 99 | (11.7) | [28.0] | 361 | (15.6) | [38.9] |
| 18-19才 | 462 | (31.4) | [75.7] | 244 | (28.9) | [56.9] | 706 | (30.5) | [69.4] |
| 20才以降 | 332 | (22.6) | [98.3] | 348 | (41.2) | [98.1] | 681 | (29.4) | [98.9] |
| 無回答 | 10 | ( .7) | [ 100] | 16 | ( 1.9) | [ 100] | 26 | ( 1.1) | [ 100] |
| 合計 | 1469 | | (100.0) | 845 | | (100.0) | 2315 | | (100.0) |

全体の中には、性別不明者1名を含む

**表18　それなりに喫煙するようになった時期**（喫煙経験者のみ）、（%）,［累積%］

| | 男 | | | 女 | | | 全体 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校以前 | | | | 1 | ( .1) | [ .1] | 1 | ( .0) | [ .0] |
| 小学校時代 | 9 | ( .6) | [ .6] | 3 | ( .4) | [ .5] | 12 | ( .5) | [ .5] |
| 中学校時代 | 86 | ( 5.9) | [ 6.5] | 28 | ( 3.3) | [ 3.8] | 114 | ( 4.9) | [ 5.4] |
| 中卒後～17才 | 176 | (12.0) | [18.5] | 51 | ( 6.0) | [ 9.8] | 227 | ( 9.8) | [15.2] |
| 18-19才 | 488 | (33.2) | [51.7] | 154 | (18.2) | [28.0] | 642 | (27.7) | [42.9] |
| 20才以降 | 613 | (41.7) | [93.4] | 407 | (48.2) | [76.2] | 1020 | (44.1) | [87.1] |
| 無回答 | 97 | ( 6.6) | [ 100] | 201 | (23.8) | [ 100] | 299 | (12.9) | [ 100] |
| 合計 | 1469 | | (100.0) | 845 | | (100.0) | 2315 | | (100.0) |

全体の中には、性別不明者1名を含む

**表19　過去1年間での喫煙経験**（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| なし | 744 | (43.9) | 1429 | (76.3) | 2173 | (60.9) |
| あり | 927 | (54.7) | 357 | (19.1) | 1285 | (36.0) |
| 無回答 | 23 | (1.4) | 87 | (4.6) | 111 | (3.1) |
| 合計 | 1694 | (100.0) | 1873 | (100.0) | 3569 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む

**表20　過去1年の喫煙頻度**（過去1年喫煙経験者のみ）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年間に数回（年間5回以内） | 48 | (5.2) | 49 | (13.7) | 97 | (7.5) |
| 2ヶ月に1回程度（年6-11回） | 9 | (1.0) | 5 | (1.4) | 14 | (1.1) |
| 月に1-2回程度（年12-24回） | 11 | (1.2) | 4 | (1.1) | 15 | (1.2) |
| 月に数回（年25-51回） | 12 | (1.3) | 5 | (1.4) | 17 | (1.3) |
| 週に1-2回程度 | 13 | (1.4) | 7 | (2.0) | 20 | (1.6) |
| 週に3-6回程度 | 16 | (1.7) | 11 | (3.1) | 27 | (2.1) |
| ほとんど毎日（1日1-10本） | 178 | (19.2) | 135 | (37.8) | 314 | (24.4) |
| ほとんど毎日（1日11-20本） | 366 | (39.5) | 104 | (29.1) | 470 | (36.6) |
| ほとんど毎日（1日21本以上） | 266 | (28.7) | 34 | (9.5) | 300 | (23.3) |
| ほとんど毎日（パイプたばこ） | 8 | (.9) | 3 | (.8) | 11 | (.9) |
| 合計 | 927 | (100.0) | 357 | (100.0) | 1285 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者1名を含む

**表21　禁煙に対する考え方**（生涯喫煙経験者のみ）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 禁煙を考えたことはない | 381 | (26.0) | 329 | (38.9) | 710 | (30.7) |
| 禁煙を考えたことはあるが実行したことはない | 283 | (19.3) | 106 | (12.5) | 389 | (16.8) |
| 禁煙を試みたが現在禁煙に至っていない | 278 | (18.9) | 131 | (15.5) | 409 | (17.7) |
| 禁煙中（初めての禁煙。1年未満。） | 27 | (1.8) | 13 | (1.5) | 40 | (1.7) |
| 禁煙中（再挑戦の禁煙。1年未満。） | 29 | (2.0) | 15 | (1.8) | 44 | (1.9) |
| 禁煙中（1年以上） | 421 | (28.7) | 175 | (20.7) | 596 | (25.8) |
| 無回答 | 49 | (3.3) | 76 | (9.0) | 126 | (5.4) |
| 合計 | 1468 | (100.0) | 845 | (100.0) | 2314 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者1名を含む

**表22　禁煙理由**（喫煙経験者で、禁煙考えたことある人のみ）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康上不調は感じないが可能性心配になった | 387 | (37.3) | 156 | (35.5) | 543 | (36.7) |
| 健康上の不調 | 344 | (33.1) | 96 | (21.8) | 440 | (29.8) |
| 喫煙者が白い目で見られるようになった | 30 | (2.9) | 23 | (5.2) | 53 | (3.6) |
| 人から禁煙を勧められた | 73 | (7.0) | 38 | (8.6) | 111 | (7.5) |
| 家族や他者の健康への影響を考えて | 249 | (24.0) | 125 | (28.4) | 374 | (25.3) |
| その他 | 130 | (12.5) | 87 | (19.8) | 217 | (14.7) |
| 無回答 | 31 | (3.0) | 8 | (1.8) | 39 | (2.6) |
| 合計 | 1038 | (100.0) | 440 | (100.0) | 1478 | (100.0) |

**表23　家庭の常備薬**（複数回答）（%）

| | 男 | | 女 | | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| とくになし | 171 | (10.1) | 148 | (7.9) | 320 | (9.0) |
| 風邪薬 | 1144 | (67.3) | 1326 | (70.8) | 2471 | (69.1) |
| 胃腸薬 | 1074 | (63.2) | 1212 | (64.7) | 2287 | (64.0) |
| ﾋﾞﾀﾐﾝ剤 | 539 | (31.7) | 666 | (35.5) | 1205 | (33.7) |
| 高血圧薬 | 217 | (12.8) | 232 | (12.4) | 449 | (12.6) |
| 糖尿病薬 | 71 | (4.2) | 58 | (3.1) | 129 | (3.6) |
| 精神安定薬 | 70 | (4.1) | 96 | (5.1) | 166 | (4.6) |
| 湿布薬 | 784 | (46.1) | 1022 | (54.5) | 1806 | (50.5) |
| 強精強肝薬 | 24 | (1.4) | 17 | (.9) | 41 | (1.1) |
| 睡眠薬 | 64 | (3.8) | 85 | (4.5) | 149 | (4.2) |
| 鎮痛薬 | 509 | (30.0) | 846 | (45.1) | 1356 | (37.9) |
| 抗生物質 | 116 | (6.8) | 151 | (8.1) | 267 | (7.5) |
| 便秘薬 | 256 | (15.1) | 422 | (22.5) | 678 | (19.0) |
| 目薬 | 970 | (57.1) | 1159 | (61.8) | 2130 | (59.6) |
| 鼻炎薬 | 280 | (16.5) | 405 | (21.6) | 685 | (19.2) |
| セットの置き薬 | 571 | (33.6) | 576 | (30.7) | 1148 | (32.1) |
| その他 | 34 | (2.0) | 48 | (2.6) | 82 | (2.3) |
| 無回答 | 16 | (.9) | 13 | (.7) | 29 | (.8) |
| 合計 | 1699 | (100.0) | 1874 | (100.0) | 3575 | (100.0) |

全体の中には、性別不明者2名を含む